

## ペルー洗濯紀行 ー洗濯の原風景を尋ねてー

A travel sketch on washing in Peru - looking for the original manner of washing

駒城 素子

Motoko KOMAKI

(お茶の水女子大学・生活科学部)

## 1. はじめに

著者はこの数年、洗濯における機械力の効果を重視し、最も基本的な道具である手や棒・石を使って行われてきた叩き洗いにおける要因を解析する研究を続けてきた。この研究の系譜は元金沢大学(および県立新潟女子短期大学)教授の多田千代先生がライフワークとして綿密な実際的研究を展開されており、その一部を引き継がせて頂いたことにある。先生は特に足踏み洗いを解析され、古く秋田地方で行われていた洗濯風景のビデオの解析や岡山の奥津温泉、三重県の神島などで実地調査され、それをもとにモデル実験を組まれて、精力的に“足けり”の効果を明らかにされた。

手足を使った洗濯は機械化が進んだ文明国において無縁の様であるが、しかし文明に左右されない基本を知ってそれを応用することはいつの時代にも重要であると考えている。ひいては環境負荷を抑えた洗濯方式や洗濯機的设计にもつながる。

このたび平成17年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究(B)「環境負荷を抑えた洗濯方式の基礎研究ー衝撃圧縮による洗浄性」の研究の一貫としてペルーに行く機会を得て、リマ市内および近郊において、電気洗濯機に頼らない洗濯の実際の風景を観察することができた。

ペルーは日本人が最初に移民した南米の国であり、アンデス山脈とその周辺高地にはアマゾンの緑豊かな湿地帯をも有する一方、太平洋側の地域は大変乾燥した砂漠地帯であるというように、高度や気候が著しく変化に富んでいる。首都リマは二つの大きな川(Rio Chillon, Rio Rimac)のおかげか、一般には特に水に不自由する生活はみられなかった。歴史的には、16世紀にピサロによって征服されるまでいくつ

かの特徴ある文化(たとえば、インカ、チャビン、パラカス、チャンカイ、ワリなど)が栄えていた。スペインの植民地となって以来先住民の文化はことごとく破壊されてしまい、キリスト教を中心としたヨーロッパ文明的な国になっている。しかし都会と地方およびアマゾン地方から移住してきた人たちが貧富の差が大きく、政治的にも多くの困難を抱えていることも衆知の事実である。

このような事情から、洗濯の原初風景を観察調査したいという筆者の意図が実現するものと期待して、現地の情勢に詳しい三栄源 FFI のリマ所長柴原 靖氏、所員 Akira Toyama 氏に案内と通訳をお願いして調査旅行を実施した。

## 2. チヨン川(Rio Chillon)に沿って

2006年1月22日(日) 9:15 出発

リマから北東約22kmのSanta Rosa de Quivesに向け車で出発した。

沿道は樹木が少なく埃っぽい乾燥地帯で、レンガ積みの家々が並んでいる(Photo 1)。

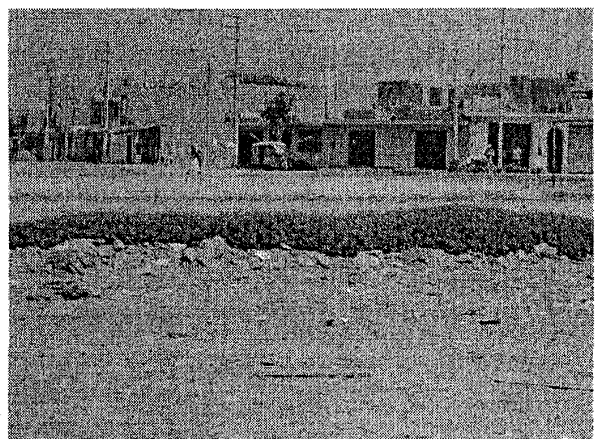


Photo 1 Dry zone near Lima

家がだんだん少なくなり田園地帯になってくるとトウモロコシやバナナの畑、農園があり、馬やヤギが飼育されている。しかし山は相変わらず

ず緑のない荒涼とした風景である。これは雨が降らないのであろう。

さらに進むと小川が現れ、岸边にも灌木が多くなってきた。

10:50 Santa Rosa de Quives (標高 900m)の町に着く。チヨン川にかかる橋のたもとで洗濯する女性を見つけ声をかけて質問したところ、洗濯は(週に)2回、土・日曜にする(月～金曜日は畑仕事をする)。市販の粉末洗剤を使って手でもむ(Photo 2)。水は町からパイプで供給されるのを貯めておいて使う、とのことである。

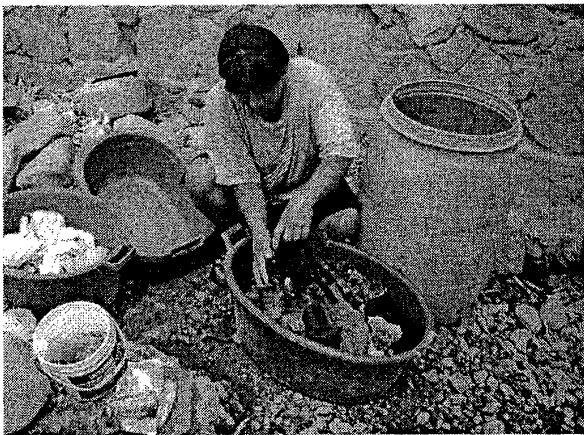


Photo 2 Washing at Santa Rosa de Quives

初めて洗濯しているところを見ることができたが、この洗濯方法だけでは不十分なので、さらに上流に進むことにした。

12:00 高度 1800m を通過。川の水量は豊かで山肌に草木あり、送電線の鉄塔が見られる。山の中腹まで畑になっていてサボテンが植えられており緑豊かで、牛もいる。このあたりで少し息苦しくなってきた。

Canta(2700m) に到着。山の頂上に広場と教会、銀行、市役所、ホテルなどが建ち並ぶ街がある。谷に下ってみると集落があり、きれいな水がとうとうと流れる川の付近が遊園地となっていて乗馬をしていた。しかしこの川では洗濯は見られなかった。Cantaからは別のルートを引き返すことにし、途中、コチニールが寄生しているウチワサボテン(tuna)の畑を見ることができた。

14:00 頃 チヨン川(川幅 15m 程度で水量豊富)のほとりに大勢の人達が集まっている。車から水着姿で降りた親子連れが、川をせき止

めたプールで泳ぎ、またその下流ではいくつもの家族が洗濯をしている。川に入りながら洗濯物を水際の石の上で揉み洗いしているわきで、幼児が水遊びをしている、というように家族で遊びを兼ねて洗濯を行っている(Photo 3)。



Photo 3 A washing family in Rio Chillon

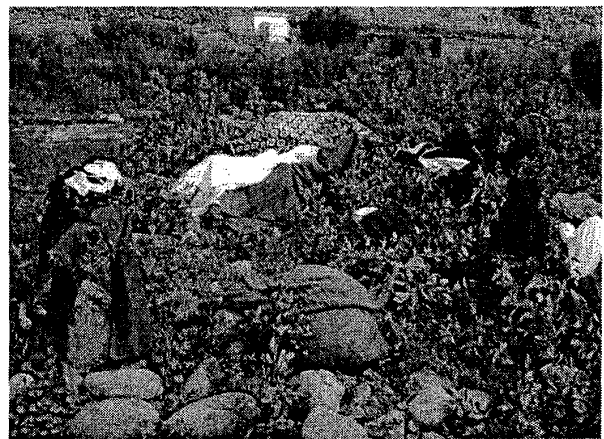


Photo 4 Drying on bushes and stones

洗ったあとの乾燥は川原に生えている灌木や石の上に広げている(Photo 4)。多分、干しあがるまでの間、近くの屋台で飲食したり、のど自慢などで遊んでいるようである。

「洗濯は川で土、日にする人が多いであろう」という Toyama 氏の予想通り、自然の中で楽しみながら家事を行っているのは興味ある風景であった。

15:30 頃、リマに戻った。

### 3. リマ市内リマック川(Rio Rimac)での洗濯

2006 年 1 月 23 日(月) 9:15 出発

袋に入れた洗濯物を抱えた人達が(自転車を改造したような乗り物で)次々とやってきて洗濯を始める(Photo 5)。

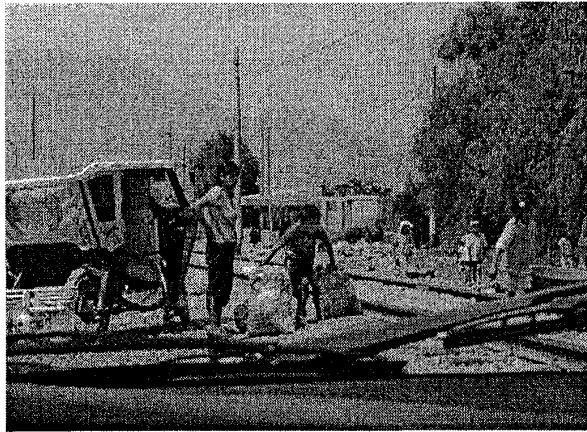


Photo 5 People who bringing their bundles of laundry

#### 1) リマ市水道局の公共洗濯場

10:00～10:40 リマック川で洗濯をする人が多いため川が汚れるので、リマ市の水道局が浄水場の脇に用意した青空施設である。

高さ 2m 程度の帽子型の給水塔が3基あり、これは周りにいくつか区切った水槽と洗い台がついている(Photo 6)。苔が生えるのか、職員がへらでそぎ落とす作業をしている。周辺には洗剤や飲み物などを売る人がテントをはっている。

洗濯しているのはほぼ女性(母親)であり、脇には囲いの中に入れられた乳児や、遊び回る幼児がいる(Photo 7)。

ここで見られる洗濯方法・道具は、「手で揉む」、「ブラシでこする(Photo 8)」、が多く、1人だけ「叩き棒を使ってたたく(Photo 9)」人がいた。このたたき洗いをしている人に、どのように洗濯しているのか質問した。その結果、

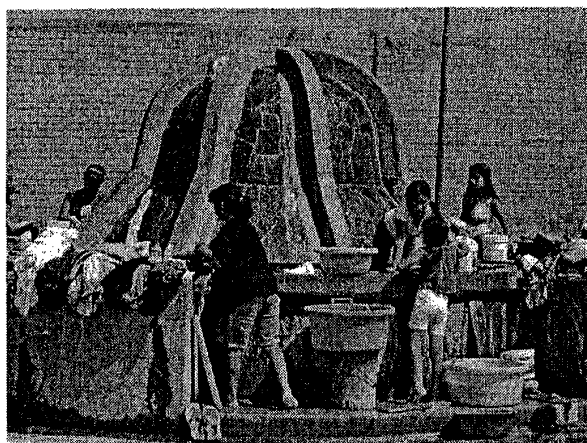


Photo 6 Washing at the side of the water purification plant



Photo 7 A baby in a basket



Photo 8 Washing Jeans with a brush

- ① 石けんをこすりつける
- ② 棒で叩く
- ③ ブラシをかける
- ④ 手で揉む

・上記②と③は、洗濯物がぶ厚かったり、剛かったり、また汚れがひどい場合に行う。順序は入れ替わることもある。

・この(叩く)方法は汚れがよく落ちる。

・自分は Cerro de Pasco (アンデス高地、Lima から 200km ほど東北)から来た。家族は(母親も代々)ずっとこの方法でやってきた。

・しかし最近の人は使っていない。

・たたき棒は家具屋で作ってもらった(Photo 10)、とのことである。

このたたき棒は重宝のようで隣の人が借りて使っていた。



Photo 9 Beating the clothes with a stick



Photo 10 A stick for beating and a detergent



Photo 11 Washing people in the stream of Rio Rimac

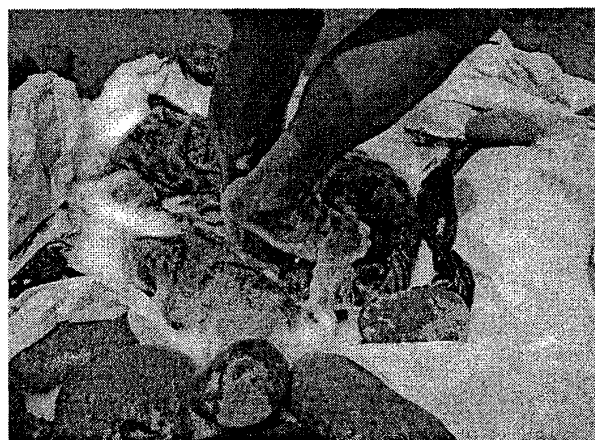


Photo 12 Stamping the clothes on the shore

## 2) リマック川ワイカン地区

10:50~12:0 この場所には入り口で入場料を支払って入る。なお、かなり貧しい人々のため、騒動になったりして難しい、というので現地の事情のわかる Toyama 氏に先に様子を見に行ってもらい、安全を確認した後にその場に行き観察した。

リマック川の流れを引いて作られた小川でおよそ 100 人が洗濯している(Photo 11)。夏休みで子供も多い。

川のふちにビニールシートを広げた上で洗剤液と洗濯物を足で絡ませながら器用に踏み洗っていた(Photo 12)。

## 4. 50 年ほど前のペルーでの洗濯

リマの大学の先生方 (Dr. Jose Amiel, Universidad Científica del Sur, Dra. Bertha Pareja and Dra. Olga Palacios, Universidad Nacional Mayor de San Marcos) と会食した際、  
“50 年ほど前までは Greda (土、Carbonato de

Calco) や Roque、Quellaya Saponaria Twrana などの天然物を洗髪や衣類の洗浄に使用していた“こと、また、“今でもアレキパの Convento Santa Catalina (修道院) では 17~18 世紀の方式で洗っている” という話を伺った。

## 5. おわりに

今回、生活が貧しい故に残っている従来からの洗濯方式を見る事ができた。ここでは洗濯操作の基本である揉む、特にたたくが行われており、その効果についても当事者には強く認識されていた。今回はその洗濯技術の他にも、川という場の役割、家事と家族のつながり、など考えさせられる事が多い視察旅行であった。

三栄源 FFI のリマ所長柴原 靖氏、所員 Akira Toyama 氏に多大のお骨折りを頂き、また李宣融前生活環境研究センター講師の写真を使わせて頂きました。記して謝意を表します。